

P・I・Aとは、
Proactive (主体的な)、Interactive (対話的な)、Authentic (本物の)
Learning (学び) [文部科学省パンフレットより 2021.3 発行] の頭文字
をとったもので、「主体的・対話的で深い学び」を英語で表現したもの。

授業改善リーフ「第3集」

P・I・A シート

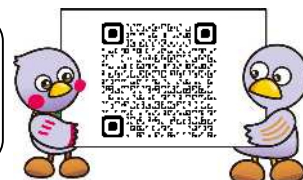
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
中学校 音楽 編 ① 概要

校種・学年	中学校・3学年	教科等	音楽
題材名	「ボレロ」の音楽の仕組みを楽しもう		
題材の目標	(1)「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴と他の芸術との関わりを理解する。 (2)「ボレロ」の音色、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 (3)「ボレロ」の音色、構成に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。		
本時のねらい	・曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴を理解する。〈知識〉 ・楽器の音色や響き、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。〈思考力、判断力、表現力等〉 『生徒の思考・判断するよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素』は以下のものを扱う。 音色、構成		
本時の評価規準	・ 知 「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりを理解している。【知識・技能】 ・ 思 「ボレロ」の音色、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。【思考・判断・表現】		

事例の概要(見どころ)

- ①曲想を捉えるために、曲中に繰り返し演奏されている特徴的なリズムや旋律Aを知覚し、口ずさんだり実演したりする活動を取り入れています。
- ②リズムと旋律Aとの関わりがもたらす曲の雰囲気や特徴を感受し、音楽の構造について何度も試したり確かめたりしながら、知覚したことと感受したことを結び付け、その特徴を理解させています。
- ③音や音楽を介したコミュニケーションを図りながら、授業が展開されています。

発行：令和6年1月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



その他のP・I・Aシートはこちら ↑

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
 中学校 音楽 編 ② 指導展開





🎵 目標

- ・曲想と音楽の構造との関わりを理解する。〈知識〉
- ・楽器の音色や響き、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことで、感受したこととの関わりについて考える。〈思考力、判断力、表現力等〉

🎵 準備

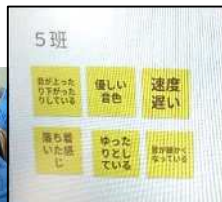
【生徒】学習者用端末【授業者】大型モニター、CDの音源（範奏用の楽器：スネアドラム、クラリネット）

🎵 展開（1/2）

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
<p>本時の目標：音色と構成の重なりを感じ取ろう</p> <p>○ボレロのリズムを聴き、特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを共有し、リズムと旋律に分けて音楽を鑑賞する。  <ul style="list-style-type: none"> ・授業者がボレロの特徴的なリズムに着目させ、音楽の冒頭部分を全員が聴き、生徒が【感受した音楽をどのような言葉で表現することが自分なりの価値観に近いのか】について、黒板や手元にあるヒントカードを基に整理しています。 ・音楽に充分親しんだ状態で思考を深められるよう、リズムを何度も聴き、試したり確かめたりする。 ・リズムを聴き、特徴や喚起される雰囲気などについて、気づいたことや感じたことを述べ合う。 ・机でボレロのリズムを打ち、知覚したことと感受したことを結び付けて考える。 <p>「一定のリズム」、「4分の3拍子」、「弾むような感じ」、「パレードみたい」という生徒が知覚・感受したリズムの特徴について全体で共有し、生徒の吹きを拾った授業者が、「どの部分でそう感じたの?」、「本当にそう?」、「確かめてみよう」など、授業者の切り返し発問を経て、音楽を何度も聴き直したり、机をリズム打ちしたりしているので、全員が実感を伴ってリズムの特徴を捉えることができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者が楽器や指揮で示したり、生徒が口や手でリズムを体現したりしながら、音や音楽を介したコミュニケーションを図り、知覚したことと感受したことを結び付けて音楽の特徴を捉えていきます。 	<p>○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法</p> <p>【授業改善の視点1】 感受した音楽の雰囲気などについて、「～のような感じがする」と自分なりに言葉で表すように促すとともに、「それは音楽のどんなところから感じたのか」を考えさせます。その際、わかりやすい部分を抽出して聴くなどして、音楽を形づくっている要素の働きを捉えやすくします。</p> <p>・生徒が知覚したリズム（3連符）について、感受したことや既習事項と結び付けながら整理しています。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○実際にリズムパターンを手で打ちながら、リズムの特徴について実感を伴って理解できるようにする。 ○リズムに充分親しめるよう、何度も音楽を聴いて試したり確かめたりしながら繰り返し叩かせる。 <p>☆知 「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりを理解している音楽を聴いている。〈観察〉</p>  

○旋律 A を聴き、音色や特徴を理解し、曲想の雰囲気を感じ取る。

- ・旋律 A を教師の範奏や音源で聴く。



- ・授業者が、音源を流したりして、繰り返し何度も聴いていくなかで、生徒が【感受した音楽をどのような言葉で表現することが自分なりの価値観に近いのか】について、学習者用端末を活用して意見交換をしています。

- ・旋律 A の旋律を「La La La～」などで口ずさむことで旋律を覚える。
- ・旋律を歌ったり、聴き直したりしながら音楽に十分に親しみ、感受したこととの関わりについて、自分たちで試したり確かめたりする。

○リズムと旋律 A との関わりがもたらす音色や響き、構成を知覚し、曲の雰囲気や特質を感じ取る。

- ・リズムと旋律 A を併せて音楽を聴く。



- ・旋律 A を歌うグループとリズム打ちのグループに分かれて一緒に表現したり互いに聴きあったりするなどして、音楽に充分親しむ。
- ・個人で感受した曲想と知覚した音色や響き、構成などについて音源を何度も聴き直したり、自分で表現したりして知覚と感受を結び付けて音楽を捉える。
- ・旋律とリズムとの関わりについて理解を深めるとともに、次時への課題として旋律 B を聴き、ポレロが二つの旋律とリズムで成り立っていることを知る。

○学習を振り返る。

- ・本時の学習を振り返り、音源をもう一度聴き直す。
- ・ワークシートに授業の振り返りを記入する。

【生徒の振り返り】より

一定のリズムを叩くのは難しいと思った。また、その上から滑らかな旋律が重なることで、楽しそうで軽快な感じが表現されていると思った。

【生徒の振り返り】より

ポレロは1つのリズムと2つの旋律によって構成されていることを知った。一定のリズムで叩くのが難しかった。リズムは一定なのに、2つの旋律によって滑らかな優しい感じの曲が構成されているという特徴を捉えることができた。二つの旋律は雰囲気が全然違った。

【授業改善の視点2】

旋律 A を聴き、授業者が「音楽のどの部分からそう感じたのか」について根拠をもって表現させたり、実際にその部分を聴き直したりして、音を介した【対話的】な学びを実践しています。

他者との対話によって、自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を意図的に設定しています。

- ポレロの特徴的なリズムを感じ取り、音楽を形づくっている要素が醸し出す、特質や雰囲気に気付けるようにする。
- ジャムボードを用いて、特質や雰囲気を挙げさせる。また、全体で共有しながら進めることで、表現することが苦手な生徒への支援とする。
- 旋律 A を歌わせ、特質や雰囲気を感じさせる。

☆**知** 「ポレロ」の曲想と音楽の構造との関わりを理解して言葉で表している。(記述)

【授業改善の視点3】

個人で取り組む場面とグループで取り組む場面を短時間で繰り返すなど、対話的な学びをとおして、他の人の意見や観点を取り入れながら学習に取り組めるようにすることで学習を調整できるようにします。

- ・生徒が感受した「弾むようなリズム」と「緩やかで伸びやかな旋律 A」を口ずさんだり、机をリズム打ちしたりするなど、音楽に十分親しみ、実感を伴って音色や構成を捉えることができていました。

【授業改善の視点4】

まとめの部分として、本時のめあてを全体で再確認した上で、音楽の捉え直しができると、更に実感を伴って音楽に親しむことも考えられます。

- リズムや旋律 A に充分親しめるように、音楽を何度も聴いて、試したり確かめたりしながら音楽を捉えるようにする。
- 感受したことと関わらせながら音楽を捉えられるように生徒の発言を共有する。

【授業改善の視点5】

ワークシートには知覚したことと感受したことを関連させて記入させます。「音程の上がり、下がり」、「速度の速い、遅い」などのみの聴き取りを書くだけにならないような記述シートにします。

☆**思** 「ポレロ」の音色、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。(観察・記述)

- ・授業者による、本時の「学習のまとめ」を音楽を聴き直すことから始め、生徒が今日の学習を振り返る時間が十分に確保されていました。
- ・生徒の振り返りには、本時の学習のキーワードとなった音楽の要素と感受したことと結び付けて記入できていました。